

第 188 回
定例探鳥会

日時 : 2002年 8月 11日 (日) 天候 : 晴れ
コース : 高来神社 八俣山 浅間山

集合時間前(7時頃)アオバト6羽が上空を照ヶ崎方面に移動。山の中でも何ヶ所かで群れを観察したりごく当たり前の風景のように見えていました。この時期は毎年鳥の観察数が少なく寂しいのですが、アオバトを観察できる高麗山は本当に幸せだと思います。よく照ヶ崎でアオバトの観察会を行うと丹沢でもほとんどアオバトに出会う事はないのにと話を聞きます。それがこの時期、普通に山の上空や市街地を飛ぶアオバトを見る事ができる事は、鳥を始めたばかりの人やアオバトはまだ見ていない参加者にはあの緑色が脳裏に焼き付くんだらうなと思いました。私も鳥をはじめた頃に見たアオゲラの緑色が脳裏に焼き付いています。

山はまだ暑くセミの声もしていますが、時折涼しい風が吹いて来たりしていました。その中でもヒヨドリだけは元気な声で鳴いています。20~30年前の高麗山ではこの時期こんなにヒヨドリの声がしたのだろうかなどヒヨドリ談議で盛り上がりました。

1983年当時(約20年前)の高麗山の調査資料では、すでに夏の時期にはヒヨドリは多いとなっていました。1970年頃より繁殖期に市街地に進出してきたようですね。

見晴台ではチョウゲンボウがチラリ。ツバメの仲間もツバメイワツバメそれにコシアカツバメを観察でき着実に秋に向かっていくようでした。

来月(9月定例探鳥会)には渡りの鳥たちも観察できると楽しみます。

参加者

参加人数 26名(敬称略)

- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 根岸 春旭 | 2. 近藤 静子 | 3. 下倉 紘一 | 4. 八木 正 | 5. 星野美代子 |
| 6. 鈴木 逸子 | 7. 服部 寛之 | 8. 大坂 英樹 | 9. 谷川 浩 | 10. 熊谷 拓郎 |
| 11. 福田 適 | 12. 平塚 津矢子 | 13. 山田 文則 | 14. 吉田 敬一 | 15. 伊藤 武雄 |
| 16. 鈴木 勝子 | 17. 吉尾 孝 | 18. 霜島 淳子 | 19. 南 博 | 20. 福田恵美子 |
| 21. (田端 裕) | 22. (西ヶ谷修一) | 23. (岩佐 昌夫) | 24. (内山規矩雄) | 25. (金子典芳) |
| 26. (斎藤常實) | | | | |

見聞きした鳥

種類数 20種(ドバトを含む)

- | | | | | |
|-------------|------------|----------|-------------|-------------|
| 1. ヒビ | 2. チョウゲンボウ | 3. コジュケイ | 4. キジバト | 5. アオバト |
| 6. (ドバト) | 7. ヒメアマツバメ | 8. アオゲラ | 9. コゲラ | 10. ツバメ |
| 11. コシアカツバメ | 12. イワツバメ | 13. ヒヨドリ | 14. ヤマガラ | 15. シジュウカラ |
| 16. メジロ | 17. カワラヒワ | 18. スズメ | 19. ハシボソガラス | 20. ハシブトガラス |

あれから10年

アオバトの本 / 第2弾の発行に向けて、発進！！

まだ夜の明けきらぬ大磯照ヶ崎海岸...望遠鏡でジッと岩場に降りるアオバトを観察する人。JR 大磯駅ホーム...通勤の電車を待つ間に上空を飛ぶアオバトを数える人。吉沢の雑木林...実のなる木をチェックする人。鷹取山の森...遠くから聞こえてくるアオバトのさえずりに耳を澄まして聞きいる人。土屋の谷戸...ミズキの実のなり具合を観察する人。過去の文献からアオバト資料の掘り起こし反説をする人。インターネットでアオバトの事を発信し続ける人。アオバトに魅せられたこまたんメンバーの日常的な観察の姿です。

地道で粘り強い活動で得られたデータを基に1992年にアオバトの本の第1弾「大磯町照ヶ崎海岸におけるアオバトの生態」が、日本野鳥の会神奈川支部の「かながわ野鳥ライブラリー」の第1号として発行されました。あれから10年が経ち、前記のような日常的な活動により膨大なデータが集まりました。また、この春には丹沢で約3ヶ月間にわたる集中的な観察も行いました。さらに、海外の貴重な資料や文献調査により多くの情報も集まりました。このようにして集まったデータや情報から新たな事実が分かってきました。そして、新たな謎や疑問も出てきました。

第1弾はすでに廃刊となっており収集したデータ、情報を集大成して第1弾を上回るアオバトの本 / 第2弾を出そうという声を持ち上がりました。メンバーが集まると、どうすれば本を作れるかという話で盛り上がっていました。そんな時に、ある人の紹介で、ある出版社が興味を持ってくれました。

先日、第1回目の打ち合わせのために、紹介者とこまたんから4人(田端、斎藤、下倉、岩佐)でその出版社を訪問しました。編集長さんにお会いして、アオバト調査の歴史・内容、アオバトの美しさ・素晴らしさ、こまたんの活動などを説明し、約1時間ほど我々の熱意を訴えました。編集長さんからは、どのような本にするか具体的な案を作り編集会議にかけるとの回答をいただきました。その結果は連絡してくれることになっています。話し合いの感触はよかったと思うので期待していますが、どのような結果になるか楽しみでありちょっぴり不安でもあります。アオバトの本 / 第2弾の発行に向けて行動開始です。採用された場合は2004年の春頃の完成を目指しています。今回の結果に関わらずアオバトの本作製は進める予定です、皆さまのご協力とご声援をお願いいたします。

【お知らせ】

鷹取山 吉沢自然観察会 (第45回 市民探鳥会)

日 時 : 2002年10月20日(日) 9時15分から 午後2時頃に解散の予定 (雨天中止)

コ ー ス : 東の池 谷戸川 鷹取山 霧降の滝 松岩寺

集合場所 : 神名中バス 生沢」バス停 午前9時

JR 平塚駅北口 地下道入り口付近 午前8時 (8:30発のバスに乗ります)

持 ち 物 : 昼食と飲み物 (必ず用意してください)。あれば双眼鏡、図鑑、筆記用具など

注意事項 : 集合場所と解散場所が違いますので、自家用車で参加される方は注意してください。松岩寺から東の池は、徒歩で30~40分かかります。

コースにはトイレがありません。ご承知おきください。

コースの途中や集合場所の近くにはコンビニやお店はありませんので、昼食と飲み物は必ず準備してください。

お問い合わせ 連絡先 :

0463-55-6142 (岩佐 昌夫) 0463-33-4322 (内山 規矩雄) 0463-32-5583 (金子 典芳)

なるほど・ザ 野鳥 (No.3)

野鳥たちの不思議な行動や生態のおもしろい話をインターネットなどから集めています。それらの中から一つか二つずつを紙面に余裕があるときにこのコーナーで紹介していきます。

あるときは水中メガネ、そしてあるときはサングラス - 鳥のマブタは

眼球を保護するマブタは、普通、目の上下にしかありません。しかし鳥には、第3のマブタと呼ばれる瞬膜というマブタがあります。瞬膜は半透明な膜で、目頭から目尻に向かって、斜めに目を覆います。瞬膜は人間の目にも目頭のところに、痕跡として残っています。この瞬膜は何のためにあるのでしょうか？鳥には涙腺がないので、瞬膜が眼球をぬぐって角膜を湿らせているのです。それだけでなく直射日光、水面からの反射光や風から目を守ります。また、潜水性の鳥は、水に潜るとき、水から目を守るために、眼球を瞬膜で覆います。瞬膜の退化した私たちが目を守るため水中メガネやサングラスを使うようにこの瞬膜を使ってするのです。

ほとんどの鳥はこの瞬膜を使ってまばたきをします。フクロウのように目の大きい鳥では、容易に観察できます。

超能力は目か、鼻か？ - 鳥の嗅覚は

どこからともな動物の死体に集まってくるハゲワシやコンドルの超能力的な感覚について、これは嗅覚による、いや視覚によるのだ、と長い間、論争が続きました。

1939年、マックヘンリーという研究者は、クロコンドルがスカンクの悪臭攻撃を受けても平気で、しまいにはそのスカンクを引き裂いて食べたのを観察し、嗅覚がまったく鈍感な証拠と発表しました。

これと反対に、家畜小屋の中で家畜の死体が腐ると、その匂いに引かれてヒメコンドルが集まったと嗅覚敏感説を発表した学者もいます。もっともこの発表に別の研究者は「腐肉に集まるハエなどの昆虫を見てヒメコンドルが集まった可能性あり」と批評しました。

結論としては、キーウィのような例外を除いて、一般に鳥類の嗅覚はそう鋭敏ではないようです。あまり発達していない鳥類の嗅覚器官の構造も、それを暗示しています。

【お知らせ】

大磯 宿場まつり

10月13日(日) 旧東海道 松並木。こまたんは「あおばとや」を出店します。

アオバトについての展示と説明をします。これに合わせて照ヶ崎でのアオバトの観察会も行います。定例探鳥会の日ですが、終了後に行けばちょうど良い時間です。

大磯 文化祭

11月16日(土)～18日(月) 大磯 滄浪閣。アオバトの展示などを行います。

時間など詳しいことは、10月と11月の定例探鳥会または会報でお知らせします。

鳥報

アオバト情報

・照ヶ崎のアオバト

先月号に載せたように 7/19 に幼鳥の飛来が観察されました。その後も幼鳥の飛来数が増え、小野さんが連続的に幼鳥の観察を続けてきましたので、識別のポイントがハッキリしてきました。この紙面では書ききれないので省略しますが、この特徴の違いによって第一期幼鳥と第二期幼鳥が見分けられそうです。8月初めには約 2 時間の観察で幼鳥の飛来数は 9 ~ 20 羽程度でしたが、下旬には 50 羽位と増えてきています。今後は、また産毛の残っているものや第 1 期幼鳥が来ないかが興味のあるところです。もし、これらが確認できれば 2 回目の繁殖が行われたことの証拠になります。

・その他の場所でのアオバト目撃報告

北海道 音別町 : 6 ~ 7 羽の群れが湿原の上空を海の方へ向かっているところが何回か見られた。海水吸飲の可能性があるとされる。

浜名湖 大草山 / 黒岩崎 : 岩礁に東名高速を横切ってアオバトが海水を飲みに来る。5 月初旬が初認で、8 月に最大となり 200 羽を越えることもある。10 月下旬が終認となる。朝 8 時 ~ 9 時の飛来が多い。(遠江 『遠江の鳥』No.200)

その他の野鳥情報

カラスバト? ... 8/7、平塚市四之宮、相模川沿いの化学工場構内。全身真っ黒なハト。くちばしは灰色、脚は赤っぽい色、眼は赤く見えた。首の辺りの毛には赤紫色の光沢がある。ドバは大きく、首が長く見えた。飛んだときに翼の裏も黒いのを確認。カラスバトの特徴によく一致しているのですが? マーク付きです。2000 年 7 月 27 日には吉沢でも同じようなハトが見られています。

シギチ ... 8 月中頃を過ぎてからシギチの情報が集まりだしました。渡りが始まったようです。平塚市の高砂、大根川で確認されたものを順不同で並べてみました(チドリ類も含む)。
タシギ、ムナグロ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、ケリ、コチドリ
夜、大磯高校前の海岸でシギチの声を聞いたという情報もあります。夜の海上を渡っていくのでしょうか?

お知らせ

定例カウント調査

吉沢 松岩寺 & 土屋 遠藤原 2002 年 10 月 5 日 (土)

生沢 鷹取山 2002 年 10 月 12 日 (土)

午前 6 時 に高麗ハイツ隣の駐車場に集合。12 時頃に集合場所に戻ります。雨天中止。

連絡先: 岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

次回の定例探鳥会は 2002 年 10 月 13 日(日)です。午前 7 時 30 分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第 187 号 / 9 月号 発行所: こまたん

齋藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142